

### 3. 帯状疱疹

帯状疱疹に関しては皮疹が治癒し、痛みが軽く（耐えられるレベル）なっても必要な限り長く、3週間に1回の割合でオゾン療法を行うことをすすめる。一方皮疹の治療に加え、強い持続性の疼痛があれば鎮痛剤又はトランキライザーを投与する。又オゾン療法は早期に開始する程効果がある。皮膚疹が発生した日からオゾン療法が行われた場合は特に効果が著しい。

### 4. エイズ

8例に行ったが必要なデータがとれた5例について述べる。症例が5例と少ないため確実なことは言えないが、エイズ患者に対して価値があるように思う。

#### 統計データ

年 齢	28～36歳 (平均30.4歳)
性	女 性
オゾン療法セッション	8～43セッション (平均24.8)
全 治 療 期 間	5～35週 (平均17.8週)
ス テ ー ジ	Stadium II 3人 Stadium III 2人
自覚又は身体状況の改善	最も早い 2週 最も遅い 5週 (平均3.5週)

#### 転 帰

最大4年の追跡を行ったが、II期の3人全員が生存し元気に活動している。

III期の2人はオゾン療法及びあらゆる治療を行っているにもかかわらず悪化している。

#### エイズ患者5人の検査データ

	UP	EQUAL	DOWN
ERY			
HB			
LEUCO TOTAL			
LYMPHO %			
OKT 4 ABSOLUTE			(*)
OKT 4 %			
OKT 8 ABSOLUTE			(*)
OKT 8 %			
RATIO OKT4/OKT8			

(\*) = one not available

## 文献紹介 2

### 単純ヘルペスと帯状疱疹に対するオゾン療法

—17年間の批判的回顧—

# Ozone Therapy for Herpes Simplex and Herpes Zoster

## A Critical Review of 17 Years of Practice

Heinz Konrad, M.D., Private Medical Office, Sao Paulo, Brazil  
 Proceedings of 12th Ozone World Congress, IOA, Leel, 1991

医療法人 社団碧明会 大沢眼科・内科 大沢満雄

キーワード：単純ヘルペス・帯状疱疹・オゾン療法・統計・再発頻度

著者は単純ヘルペス及び帯状疱疹に対してオゾン療法を行った、過去17年間の経験を厳密に分析した。これらの疾患がオゾン療法により、通常どのような経過をたどるか、成功例だけでなく、失敗例も卒直に検討した。単純ヘルペス、帯状疱疹の患者に対するオゾン療法に何が期待できるか、何が期待できないかについて著者の考えを述べている。

単純ヘルペスと帯状疱疹の治療は世界中で研究されているにもかかわらずなお問題が多い。これらの疾患にオゾン療法を採用したのは、各種肝炎の治療に比べて効果が出やすいということが発端であった。これらの疾患については1981年、ベルリン第5回 Ozone World Congress で発表した。

単純ヘルペスは全例に、適切な文献に記載されているような、低比重の大量自家血液療法を行った。帯状疱疹も全例、単純ヘルペスと同様であるが、ヘルペスの耐え難い疼痛を緩和するために、Hunekeの提唱する神経痛治療を同時に行った。

単純ヘルペスについては、初期の頃は4～6セッションを勧めていたが、現在は再発時の追加を加えると、最低10～12セッションと増えている。しかしこのデータ（表1）は単に急性期（attack phase）と発疹発生後1年間の、オゾン療法のセッション数を表わしているにすぎない。又オゾン療法は、常に急性発疹時にスタートしている。63.8%の患者はオゾン療法を行っても再発している。

表1 **単純ヘルペスのオゾン療法**  
 部位により3つに分けられる。

単純ヘルペス	300例
平均年齢	34.6歳
男性	78%
女性	22%
口（口唇・鼻孔・歯茎）	17%
性器（外性器・会陰・ 肛門・下腹部）	71%
皮膚（上記以外・ 特に大腿と臀部）	12%
リン開始前に診察を 受けた医師数	2.7人
成功しなかった治療の種類	3.7
何年前にヘルペスにかかったか	6.6年
再発までの平均日数	53.3日
リン療法前の発疹の 平均持続期間	10.2日

表2 **治療回数と再発頻度**

平均治療回数	8.8回
最初1年間の治療回数	11.3回
1年以内の再発 0回	36.2%
" 1回	31.5%
" 2回	15.5%
" 3回	6.5%
" 4回	5.0%
" 5回	3.3%
計	63%

## 単純ヘルペスのオゾン療法の結果

- a) 単純ヘルペスの1/3以上は、オゾン療法を開始してから1年以内の再発はないようである。
- b) 残りの約2/3はオゾン療法開始後1年以内に、1回以上再発している。
- c) 患者の1/3はオゾン療法施行前よりも、施行後の方が再発期間が短い。最初は2～3つの発疹であっても引き続き急速に広がるかもしれないという恐怖が、オゾン療法を早めに受けようという気にさせるためと考えられる。
- d) 再発は、突然の情緒的または身体的ストレスを受けた時にしばしばみられる。
- e) 2/3は再発の期間が著しく長くなり、発疹程度が軽くなるようである。
- f) オゾン療法後は、発疹の持続はわずか1日或いはそれ以下である。
- g) 単に皮膚の感受性が亢進するのみとか、或いはわずかな腫張だけで、引き続いて発疹が出現しないことがしばしばみられる。

表3 単純ヘルペスのオゾン療法上の注意点 現在では下記の方法を推薦する。

1. 毎日1回、連続4日間—発疹時オゾン療法をスタートした時
- +
2. 毎週1回、連続6週間
- +
3. 追加⇒月1回（月経前）連続6ヵ月（女性の場合）
- +
4. 追加⇒2日間連続（再発時〔いかなる場合でも〕）
- +
5. 追加⇒月1回のオゾン療法（再発予防）

## 興味ある平均値

- a) これらの患者の34.2%は単純ヘルペスの最初の再発までの期間が、オゾン療法前の平均再発期間よりも短かった。
- b) 同様に65.8%は逆に長かった。
- c) 1回でも再発した患者では、オゾン療法後の最初の発疹再発までの平均期間は、オゾン療法前の期間よりも4.18倍と長かった。

## 非典型的経過をたどった2例（300例中）

- a) 1例は“zero effect”と私が呼んでいるもので、オゾン療法を行っても発疹、期間、程度が全く変化がなかった。
- b) 他の1例は“paradox effect”と呼んでいるもので、再発期間が短縮し、治療を中止した。

## オゾン療法の副次的効果

1. 4～5回のオゾン療法で、身体的、精神的爽快感を得、エネルギーが満ちた状態になる。
2. 特に女性はしばしば、以前と比べ肌が滑らかになり、張りが出てくる。
3. 多くの患者が、インフルエンザや風邪にかかりやすい秋や冬でさえ、かかりにくくなり、又かかっても症状は軽い。

## 帯状疱疹のオゾン療法時の注意点

1. オゾン療法単独よりも神経治療併用が有効、疾患のごく初期に治療を開始したほうが有効。
2. オゾン療法をいつまで続けるかの正確な基準はない。オゾン療法は出来るだけ頻繁に、長く続けることを薦める。疼痛が減少すれば回数を減らしてよいが、直ちに止めずに“fade out”するまで徐々に間隔を延ばして行く。

3. 三叉神経領域の皮膚が広汎に障害された場合、帯状疱疹後神経痛（PHN）が残ることが多い。PHNに対しては早期に回復することは難しい。
4. 絶望的な痛みを伴うPHNの患者は、従来の治療法や代替療法を求めるため、オゾン療法を続けることが出来ないことがしばしばある。

表4

帯状疱疹のオゾン療法

帯状疱疹患者数	45例
平均年齢	68.5歳
男性	60%
女性	40%
オゾン療法開始までに診療を受けた医師の数	4人
オゾン療法開始までに受けた治療の種類	4.9
前回の発疹平均月数	10ヵ月
治療平均回数	13.5回

表5

PHNに対する効果

疼痛不変	8%
幾分軽快（25%）	4%
かなり軽快（50%）	28%
ほぼ消失（75%）	14%
完全消失（100%）	46%

- ・発疹の部位及びオゾン療法をいつの時点から開始したかははっきりしていない。
- また PHN（帯状疱疹後神経痛）の治療はあらゆるステージで行った。

## 研究会からのお知らせ

### 編集委員会準備会

6月26日、摂南大学にて開催。会報編集体制強化の方策を検討した。

「医療」と「環境」の各々に責任者を配置し、原稿募集、原稿の査読、著者との連絡、最終稿の割り付けなどについても編集協力者（編集アドバイザー）の協力を得て担当する方法を提案することになった。

### 第1回運営委員会

7月8日、IHI本社会議室において開催。

1. 事務局を摂南大学薬学部に移動することについて検討した。当面、新旧で協力していく。
2. 新編集委員会の体制について同準備会より報告され、原案通り承認された。  
新編集委員に佐谷戸安好（委員長）、神力就子、杉光英俊、中室克彦、扇間昌規各理事が決まった。なお会員各氏に編集アドバイザーをお願いすることになった。（8月現在、朝倉紘治、伊藤順子、大沢満雄、緒方篤哉、小阪教由、錦善則、三浦敏明、村上弘の各氏の協力を得ている。随時、増していく）
3. 6月2日付け毎日新聞記事（オゾン治療最前線ーオゾン化オイル）の反響とその対応について電話、ファックスが多数あり、何らかの対策が必要である。（8月9日付け毎日新聞に患者に対応してもらえぬ医師名を掲載した）

新事務局住所：〒573-0101 枚方市長尾峠町45-1 摂南大学薬学部環境衛生学研究室内 電話：090-7111-7389      ファックス：0720-66-3123      (中室克彦)
---